

2022年3月4日

日本医学会分科会
理事長・会長 殿

日本医学会
会長 門田 守人
日本医学会設立 120 周年記念事業
事業統括部責任者 森 正樹

公印省略

「日本医学会創立 120 周年記念事業」へのご協力依頼

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日本医学会分科会の皆様におかれましては、平素より日本医学会および日本医学会連合の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本医学会は、明治 35 年（1902 年）4 月 2 日、第 1 回日本聯合医学会（後に日本医学会と改称）を上野の東京音楽学校において開催したことに始まり、本年（2022 年）に創立 120 周年の大還暦を迎えます。これを記念し、「創立 120 周年記念誌」「記念式典・シンポジウム」「未来への提言」の 3 つの事業を行います。その一つの記念式典・シンポジウムを来る 4 月 2 日にオンライン開催 しライブ配信を行います。詳細は添付のプログラムおよび日本医学会のホームページ特設サイト (<https://jams.med.or.jp/jams120th/>) をご覧ください。（参加方法については 3 月 31 日（予定）、同サイトにてライブ配信へのリンクをお知らせします）

つきましては 4 月 2 日の記念式典・シンポジウムの事業について、以下の協力をお願い申し上げます。

なお、当日は参加登録の必要は無く、無料でどなたでも参加できますので、よろしく願います。

記

- 1) 本事業の連絡担当者（事務局ではなく会員）1 名を決定し、氏名とメールアドレスをお知らせください。
- 2) 貴学会の役員には是非当日のライブ配信へのアクセスをお願いいたします。また、会員の皆様へのアクセスの依頼も重ねてよろしくお願いいたします。学会当たり、少なくとも数パーセントの会員の参加を想定し、目標としておりますので、ご協力をお願いいたします。

1) につきましては 3 月 11 日までにお知らせ下さいますようお願い申し上げます。 創立 120 周年を加盟学会の会員とともに祝賀し、医療に留まらず、より幅広い観点からの未来への提言をともに考えて頂きますように、ご支援とご協力を衷心よりお願い申し上げます。

会員数に応じた希望参加者数：左側は会員数、右側はオンライン登録希望者数

～500	： 20
501～1000	： 30
1001～2000	： 40
2001～3000	： 50
3001～5000	： 60
5001～7500	： 70
7501～10000	： 80
10001～15000	： 100
15001～20000	： 200
20001～30000	： 300
30001～40000	： 400
40001～50000	： 500
50001～	： 800

オープニング

13:00~

総合司会挨拶



苅田 香苗（杏林大学医学部教授 衛生学公衆衛生学）

開会挨拶



門脇 孝（国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長／日本医学会副会長）

式典

13:05~

式辞



門田 守人（日本医学会長）

祝辞



中川 俊男（日本医師会長）



The President of the Korean Academy of Medical Sciences Professor Ji-Tae Choung
鄭 智泰（チョン・ジテ）韓国医学アカデミー会長

日本の近代医学と日本医学会の歩み

—日本医学会創立120周年記念誌から

13:30~



坂井建雄（記念誌委員会委員長／順天堂大学保健医療学部特任教授）

日本医学会120年の歩みは、日本近代医学の歴史そのものである。戦前には定期的な学術講演会として医学系の学会を生み出し、戦後には日本医師会と合流して恒常的な組織となり、平成期にはアカデミアとしての責務のために独立した法人格を得た。

シンポジウム：未来への提言

14:00～



座長 磯 博康（大阪大学大学院医学系研究科教授 公衆衛生学／日本医学会副会長）



座長 門脇 孝（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院院長／日本医学会副会長）

序論 未来への提言について



飯野 正光（「未来への提言」作成委員会委員長／東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構 機構長特別補佐／日本医学会副会長）

1. 地球規模の健康問題への対応



遠山 千春（東京大学名誉教授）

人口増大と経済発展に伴い、地球環境は復元力を失う危機に瀕している。その結果、ヒトと野生生物の生存基盤が脅かされ、社会的格差による健康問題も生じている。現状認識、未来動向、及び医学医療の寄与について話題を提供したい。

2. 超高齢・少子化社会への対応



稲垣 暢也（京都大学大学院医学研究科教授 糖尿病・内分泌・栄養内科学）

わが国は現在、出生率の低下と寿命の延長により、かつて経験したことのない超高齢・少子化社会と急速な人口減少を迎えている。本講演では、現在の課題について述べるとともに、持続可能で幸せな社会の実現を目指し、未来に向けた提言を行う。

3. 研究力の向上



宮園 浩平（東京大学大学院医学系研究科教授 分子病理学）

わが国の医学研究は急速に発展し、研究水準は世界レベルに並ぶと考えられる。本シンポジウムでは我が国の研究力のさらなる向上にむけて、研究体制の充実、医学研究者の確保、社会との対話の促進について議論し、未来の医学・医療について展望を述べたい。

4. 医療倫理・研究倫理の深化



門脇 孝（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院院長／日本医学会副会長）

医学・医療技術の進歩は、社会の理解や受容の水準を超えるスピードで発展し、様々な倫理的課題への対応が必要となっている。医療倫理・研究倫理を深化させる上で、医師・研究者、患者・被験者、社会がそれぞれの立場と意見を共有しかつ尊重しあい適切に合意形成を行うプロセスが今まで以上に重要となる。

5. 医療のあり方



齊藤 光江（順天堂大学大学院医学研究科教授 乳腺腫瘍学講座）

120年後を予測することは、未踏の地を歩む軌跡を想像するに近いが、私達の子孫に、何を大事にし、何処に向って欲しいか、時代を超えて医療とはどうあるべきかという問いに答えを見出そうと奮闘した結果をご報告したい。

総合討論

16:05～17:00

総括



飯野 正光（「未来への提言」作成委員会委員長／
東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構 機構長特別補佐／日本医学会副会長）

エンディング

17:05～17:10

閉会の挨拶



名越 澄子（埼玉医科大学医学部総合医療センター教授 消化器・肝臓内科）